

平成27年12月11日

江差町議会議員 打越 東亜夫 様

社会文教常任委員会

委員長 室 井 正 行



委員会調査報告について

本委員会に付託事件の調査事件について、会議規則第78条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1. 調査事件

平成27年第3回定例会

発議第10号 公園の有効活用に関する事務調査について

2. 調査の経緯と結果

本委員会は、平成27年10月22日、11月17日及び11月27日の3日間会議を開催し、資料を基に担当課の職員の説明を求めるとともに、10月27日には、逆川森林公園、柳崎児童館前広場、えぞだて公園、九艘川公園、松の岱公園、茂尻児童公園の現地視察を行い、調査した結果について別紙のとおり意見を付して報告する。



【意見】

＜はじめに＞

江差町内には鷗島道立自然公園、逆川森林公園、江差町都市公園条例に基づく江差町運動公園の他、4つの公園が設置されている。

公園の定義は、町民が快適な潤いや緑の環境を享受できる場、スポーツ・レクリエーションを楽しみ、自然や緑を保全する等の目的を有し、入園料は徴収せず、広く一般に開放され、誰でも自由に利用できるとされている。

近年は災害時の避難場所や、子育て支援環境づくり等の機能を有する施設として、用途の多様化や整備の必要性が求められ、都市部では公園が増えている状況がある。保育園や学校、公営住宅用地内、町内会に有する遊具の利用状況の実態、必要性、整備のあり方と合わせ、社会環境の変化に対応可能な施設として計画的な整備方針の立案を望むものである。

また、現地調査の結果、老朽化の他、全く機能されていない遊具や、環境衛生、景観上著しく不適切な施設が多数見られ、遊具の増設・修繕のみならず、総体的な早期抜本的対策を強く望むものである。

以下、公園について、具体的な改善策の提案と有効活用の方方向性を意見する。

記

1. 逆川森林公園

町内北部に位置し、針葉樹・広葉樹の森林構成は四季を享受できる自然環境に恵まれた地域である。また、農業用ダムの水辺を有する景観・環境は、訪れた町民の心を癒す空間構成がある。

しかし、木製の遊具等の工作物は、全て経年劣化が著しく利用できなくなっており、速やかな解体・撤去が急務であり、自然環境を生かした公園として、必要最小限の施設整備と環境保全が必要である。また、案内・誘導・周知看板類・トイレ・給水設備周辺の排水対策とキャンプ利用に供する諸設備の整備が必要である。

なお、現存する焼却炉は、法令の規定により使用できないため、速やかな解体・撤去を行うこと。

2. 茂尻児童公園

町内市街地中心部に位置し、親子連れの姿をよく見かけ、天気の良い日は子どもの遊び場として適した位置に有していると考ええる。

しかし、遊具不足、簡易休憩施設、緑化や四季を享受できる花木類等が少ない等、児童公園としての機能が乏しい現状にある。また、排水処理が課題となっており、早期対策を行う必要がある。

立地特性を生かした整備促進を図ることにより、利用拡大と多機能を有する公園として整備計画を早期に立案し、改善を図るべきである。花木類の植栽計画にあたっては、

町内会や各団体等と協議され、市街地中心部の癒し空間として整備を図るべきと考える。

3. 九艘川公園

いにしえ街道沿いに隣接する小公園として、土蔵風トイレ、水流設備、石垣積みの土留等は、小さなポケットパークとして貴重な存在であると考ええる。

トイレ・水流設備は、町会所での利用転換と維持管理、衛生、保安等の面から休止しているが、町内の公園に無い風情があり、貴重な存在と考える。トイレの再利用はそのような理由から困難だが、樹木類の管理と水流設備の再活用、九艘川の由来等の看板類の設置、誘導案内看板等の設置を図ることにより、町民利用のみならず、旧中村家、旧檜山爾志郡役所を訪れる観光客の小休憩場として有効活用が期待される。

大きな財源を伴う整備ではないので、早期検討・着手を図るべきである。

4. えぞだて公園

旧関川家別荘と隣接する児童用遊具施設は、景観上異様に見えるので創意工夫が必要である。遊具の増設を図る場合、観光客から入館料を徴収する観光施設と、児童用遊具を隔離する樹木類等の対策が必要と考える。

また、庭園内の雑草の撤去をボランティア活動で長年続けている方が現地調査時に見られ、町はその善意に対し何らかの敬意を表するべきである。

さらに、公園標識看板が樹木に遮られ、見えていない。早急な対応を図ること。

5. 松の岱公園

松の岱頂上付近に利用されていない児童用遊具設備があることを多くの町民に理解されていない。遊具は老朽化し、撤去・移設・再利用するためには相当額を要すると考える。遊具は全て撤去し、つたやの沢からの散策路整備と合わせ、バードウォッチングやハイキングのコースとして整備すべきである。

また、市街地に極めて近く、眺望、歴史遺産等が近辺に有し、優れた景勝地と考える。頂上には給水用配水施設と墓地があり、道路の維持管理と整備を適時行う必要がある。しかし、近年熊の出没が多く、その対策と中長期的観点から全体像の整備計画の策定を望むものである。

6. 柳崎児童館前広場

柳崎地区は若い世代の定住化が進んでおり、子どもたちの遊び場の整備を促進する必要がある。児童館前は、通学する児童のバス停にもなっており、遊具の増設と合わせ、雨対策として待合所兼東屋的施設の整備を早急に図ること。子どもたちが元気にはつらつと遊べる広場としての整備が急務であることを町は認識すべきである。